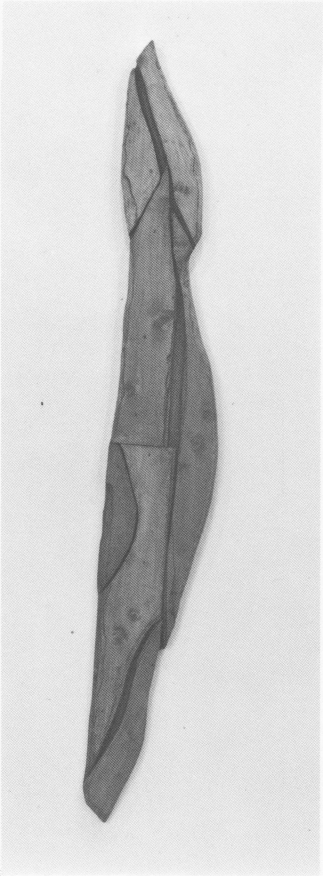
杢田たけを

杢田たけを展

TAKEO MOKUTA

3月22日－4月2日



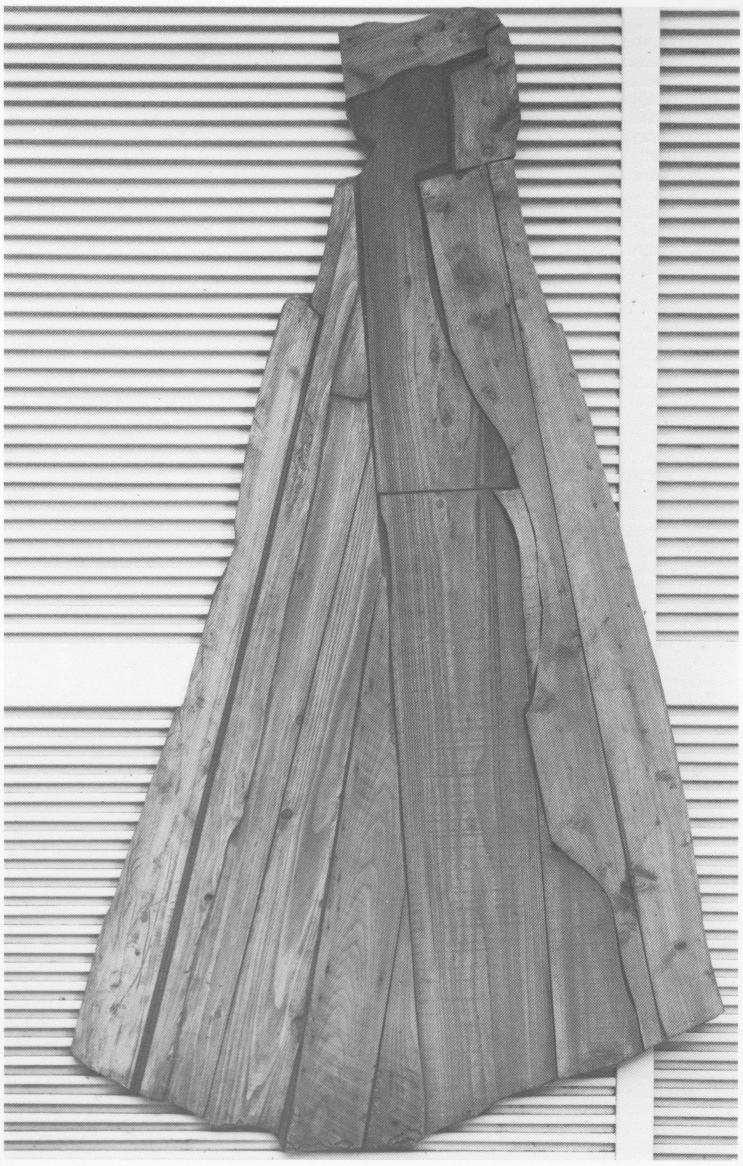
梵　83・B I　1983　134× 18× 2

杢田たけをさんについて　三木多聞　TAMON MIKI

杢田たけをさんが絵画以外の素材も使って絵画ないしは平面造形を制作したのが、独立美術展に出品をしはじめたほぼ半世紀も前のことだったというのは驚きである。幼い時から絵を描いていたこの画家が、ダダやシュルレアリスムのコラージュについて、どの程度の知識をもっていたのかわからないが、「鉄屑のある風景」と題する絵画に実際の鉄をコラージュしているのを見ると、造形上の知識からというよりは、内部の欲求から生まれたものであろう。

戦後の杢田さんの作品にコラージュが登場したのは、1950年の末ごろからだったが、油彩に鉄、木、布などをコラージュした作品は、時により微妙な変化を示しながら、一貫して継続されている。一時期には鉄や石の立体造形を発表したこともあるが、杢田さんには平面表現という志向が強いようである。最近は木を素材とすることが多いが、木のとらえ方、かかわりあい方が独得なのである。杢田さんはあるものが見る距離によって全く違って見えた不思議な経験について書いたことがあるが、作品に登場する木は、恐らく素材としてとりあげられる前に、杢田さんによってさまざまに見られているのだと思う。作者は充分なかかわりあいをもった上で、木を素材にしているといってもいい。父君の工場で育った杢田さんは、鉄について「小さい頃から鉄はきごころの知れた仲間だった」と述べているが、木の場合もきごころの知れた仲間として使っているように思う。異質な素材をアキュムレイト（集積）しながら、素材相互がなごみあい、響き合っているのはそのためであろう。そうはいっても、杢田さんは決して素材と馴れ合っているのではない。素材を鋭く見つめ、きごころの知れた仲間から新しい発見を絶えずもとめている。近作で木口を正面につき出したりしていたのもその一例である。杢田さんが素材を駆使してもとめているのは、単なる平面上の空間構成ではなく、根源的な生命力の不思議さであろう。

表紙：83－U　1983　241×240×56　御阿礼

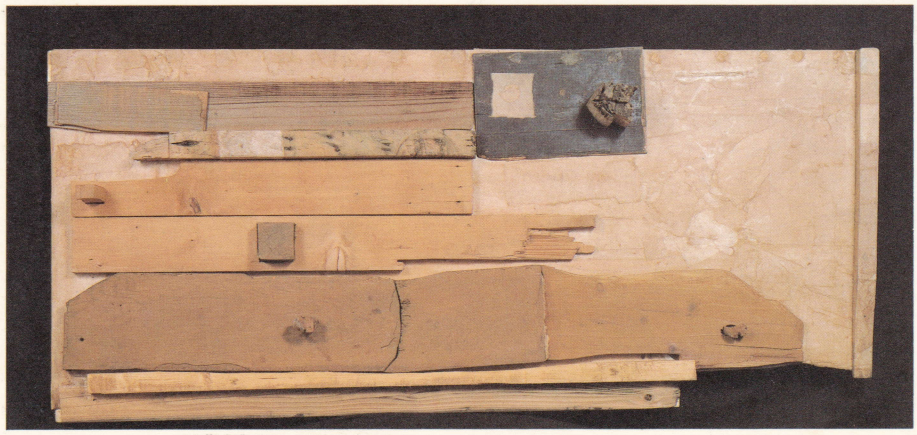


梵　83・A10　1983　178×103×40

梵　83・A5　1983　91×88×13

梵　83円　1983　223×176×20

梵　83A 3　1983　133× 88×13



梵　83 A 1　1983　161× 78×16

符　83　・A15　1983　73× 87× 4

杢田さんのタイムマシン　田中幸人　KOJIN TANAKA

美しいもの、完成されたものには、あまり近ずかない方がいい。直観的にそれを教えてくれたのは、神仏の存在だろうか、原子爆弾だろうか、それとも女たちか、ピカソか。

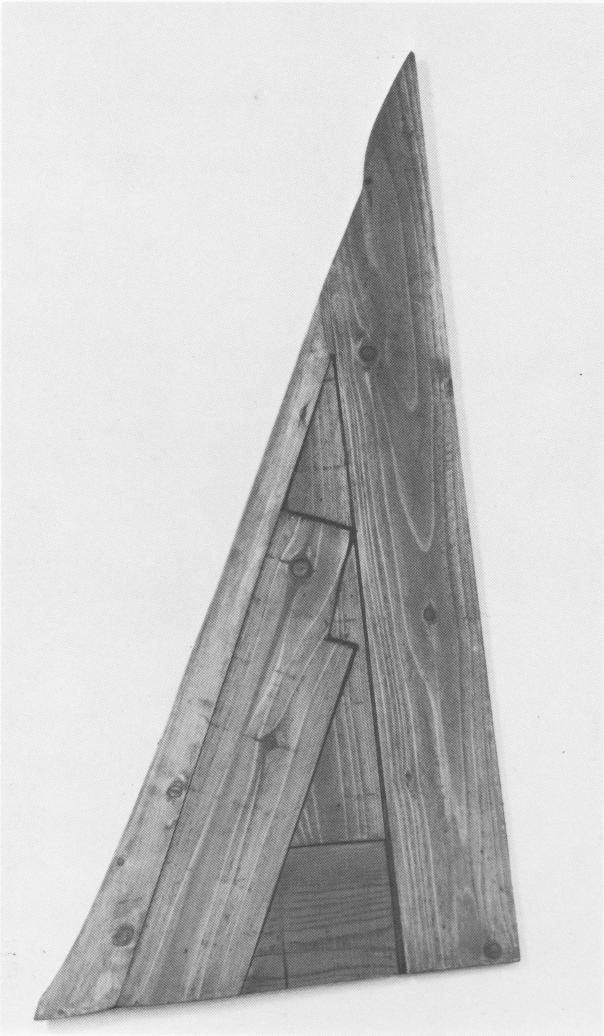
毎年、独立美術の会場に必ず足を運ぶ。二、三の、私が是非見ておきたい人の作品が並ぶからであるが、中でも杢田さんの作品の前には、いつの間にか近ずいている感じがする。ちょっと説明しがたい感興をいつも楽しませてくれるからだろう。絵（作品）のもつ「形相」としかいいようのないものが、私の意識を右往左往させるからかも知れない。一種のコワイもの見たさに似た衝動なのだ。ご存知のように杢田さんの作品は木切れの寄せ集めだ。古い流木、使い捨ての箱板、虫食いの木目…。そして作品の背中から、シミだらけの赤い布、白い布がちらりとのぞいている。何かもう、コワイもの見たさの宇宙がのぞく。無いものが有り、分断されたものがあり、倒置されたものなどがいっぱい詰まっている。眺める私は、不安がり、驚き、意外性を楽しんでいる。まるでそれがタイムマシンでもあるかのように意識は〝転送〟され、旅を移動している。時間と空間の別世界へ、だまされ、連れ出される快感に酔うのである。全く不思議なことだが、突然、北海道の海鳴りを聞くこともある。天草の唐ゆきさんのすすり泣きに似たものを耳にしたような気がするときもある。擬似歩行体験を杢田さんのタイムマシンがさせてくれるのだ。意識がぐるぐる巡り、移動することによって、私自身の中にエネルギー分子のようなものが存在するこのを自覚する。

木魂、木霊、いやいや、精神だまし？。

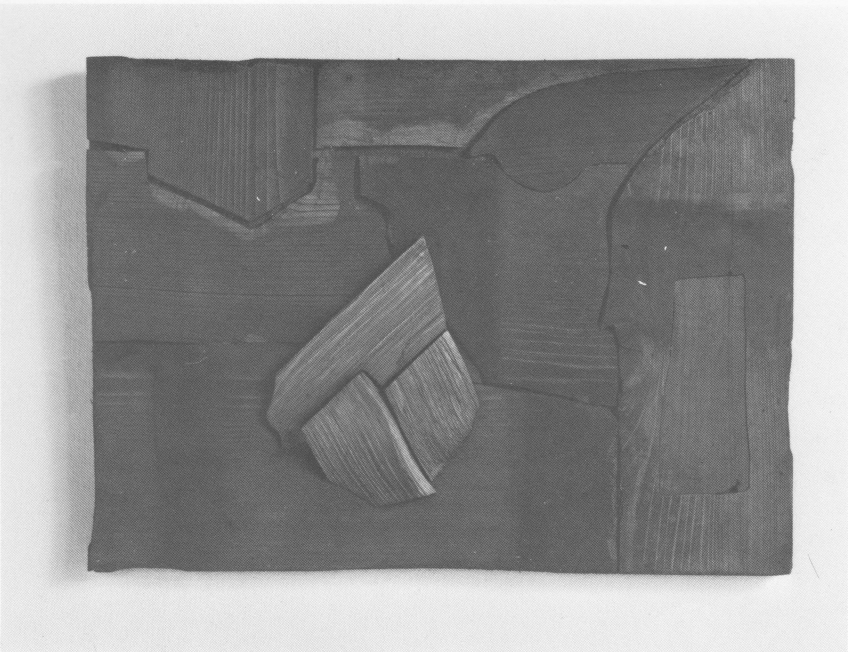
絵画の物質化を見つけたのはピカソだが、杢田さんは、昭和10年、独立初入選の「鉄屑のある風景」以来、こんな作品づくりを楽しんでいるという。完成のない牛歩の歩みだったのだと察する。

つい先立って埼玉県立近代美術館で開かれた「木のかたちとエスプリ」展の会場で、杢田さんの「御阿礼（おあれ）」を見た。円空仏や民具や現代彫刻群に交って、この人の平面秩序づくりは、一家を成していると思った。絵の「形相」が、日本人の宇宙観へつながるものをたくさん含んでいる。人を活性化させる絵はざらには無い。

（美術記者）



梵　83・A 7　1983　103× 47× 2



御阿礼　83・R　1983　50× 37× 4

1910年　兵庫県生
須田国太郎に師事
招待出品等
毎日現代展　国際展　朝日秀作展　現代作家展等
収蔵
文化庁　東京国立近代美術館　北海道立近代美術館
栃木県立美術館　豊田市民会館　亀谷美術館等

杢田たけを展カタログ
発行日　1983年3月22日
発行者　中村路子

鎌倉画廊 コンテンポラリーアート
中央区銀座7－10－8 平方ビル1F
TEL. 03－574－8307

Kamakura Gallery
7-10-8 Ginza, Chuo-ku, Tokyo Tel. 03-574-8307